

平出英夫 ひでと 海軍軍人。明治二十九年一月九日青森縣生れ、昭和二十二年十一月十五日没（八八—一九四八）。海軍兵學校卒。昭和十一年イタリア大使館附武官。戦時中は海軍大佐、大本營海軍報道部課長として情報宣傳活動に従事。

著書に、『最近の歐羅巴』（昭和十五年八月）二十九年帝國在郷軍人会本部）、『國民の勳』（馬淵逸雄合著・鈴木勝也編、昭和十六年九月二十日大新社）、『太平洋の二日間』（昭和十七年一月十九日大政翼賛會宣傳部）、『米英艦隊撃滅』（昭和十七年一月二十日、増補版、五月一日興亜日本社）、『大東亞戦争と帝國海軍』（第一輯、北村小松・海野十三・石川達三・山岡莊八他合著、大本營海軍報道部編、昭和十七年五月十一日興亜日本社）、『母を讃ふ』（山内禎子・徳積重遠合著、昭和十七年七月十五日大日本婦人会）、『作戦—萬渥—米英艦隊撃滅續篇』（昭和十七年九月二十五日興亜日本社）、『戦ひと身（い）けよ—若き女性のたゆみ』（昭和十七年十一月八日朝日新聞社）、『ソロモン海上決戦』（昭和十八年一月二十日興亜日本社）、『提督の最期』（吉川英治合著、昭和十八年八月十日大本營海軍報道部）、『海軍の生活』（昭和十八年八月）十五日生活社「生活選書」）。また吉屋信子著『私の見た人』（昭和二十八年九月二十日朝日新聞社）にその人物風貌が描かれてゐる。

